

第 86 回選抜高校野球大会出場

山口県立岩国高等学校

甲子園帯同記

岩国高校

2013 年秋季山口県高校野球大会 優勝

秋季中国地区高校野球大会 優勝

明治神宮大会 ベスト 4

2014 年第 86 回選抜高校野球大会 1 回戦敗退

日時 : 2014 年 3 月 17 日～21 日
帯同者 : 阿部康兵(理学療法士)

【3月17日】



夜、宿舎に着きました。宿舎は毎回、各県の高校野球連盟が決めています。

3月15～17日と3日連続で練習試合を行っており、早速、選手のコンディショニングを行いました。

【3月18日】



午前中にグラウンドを借りて練習を行い、午後からは甲子園練習が行われました。

練習前には、昨日コンディショニングした選手に今日の状態をヒアリングし、練習を開始しました。

甲子園での練習では、新聞社やテレビ局などもグラウンド内におられ、選手は緊張のせいか

表情が硬く、落ち着きがない様子でした。

フライが上がると甲子園球場独特の「ハマカゼ」により打球が伸びていく場面や落下地点が流されることも多々見られました。

その後宿舎に帰り、選手のコンディショニングを行いました。

まずは甲子園の感想を一人一人聞いていったところ、

「緊張しました！」や「広い！」、「甲子園に来たんだと実感がわきました」、「観客席が広い」などとても新鮮な感想をもらいました。この生で感じたものを一生の宝物にするよう、話しながらコンディショニングしていきました。

肩甲骨周囲や腰部、下肢に疲労が残っている選手も見られました。

岩国高校野球部には寮はありませんが、甲子園期間中は宿舎での生活のため、普段以上に野球に没頭できる環境にあります。この環境であるからこそ、

「セルフケア」の意識づけをこころがけ、いつも以上に体のケアを行うよう指導していきました。

【3月19日】



開幕戦が2日前に迫り、バッティング、ノック、ランニングを中心に練習が行われました。

特にピッチャー陣には下肢・体幹トレーニングの指導も行いました。体幹や股関節への意識づけを徹底して行いました。



その後は、宿舎に帰り、コンディショニングを行いました。

昨日ほど、疲労が蓄積している選手はおりませんでした。やはり一人一人特徴がありましたので、その都度指導、チェックの方を行いました。

現在のように遠征期間中は宿舎からの移動はバス移動が多く、限られた時間のため、グラウンドに着くとウォーミングアップの時間をなかなか作れません。

そのため、練習が開始しても空いた時間も使いながらウォーミングアップを行うことの説明など行いました。

選手の方から質問をされることも多々あり、本当に意識が高い選手が多いことに驚きました。

【3月20日】

甲子園開会式のリハーサルをグラウンドで行う予定でしたが、雨天のためバックネット裏で主将とマネージャーが参加して行われました。

あいにくの天気のため、それ以外の選手は近くの練習場をお借りしてバッティング中心に練習することができました。

甲子園期間中、出場校のほとんどが練習場として近くの高校にご協力いただき練習ができています。当日も数日前から雨天の予報がありましたので、練習場を探しておりましたが、なかなか見つかりませんでした。しかし急遽、自校の練習時間を変更してまでも我々に練習場を貸していただきました。



全体でストレッチ指導も行いました。正しいやり方、伸ばしている筋を意識することなど注意点も説明しながら指導しました。

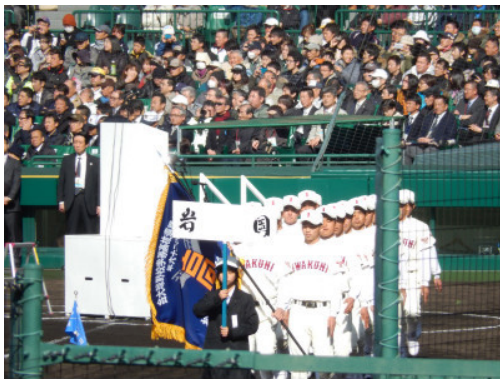
午後からはバッターは素振り、ピッチャーはブルペンにて最後の調整をしました。

その後宿舎に帰り、コンディショニングを行いました。

一人一人、体の特徴を説明し、主に試合当日に行うセルフストレッチ中心に指導、チェックをしました。

また、試合当日は開会式後の試合になるため、寒さ対策についても監督、コーチともにミーティングを行いました。

【3月21日】 甲子園開会式、開幕戦



肌寒い中、開会式では大勢の観客がつめかけ、入場曲 AKB48「恋するフォーチュンクッキー」に合わせて行進しました。また、司会進行は全国放送コンテストで優勝した学生を起用したり、文部科学大臣の挨拶、始球式もありました。1回戦から NHK で全国放送されていることも考えると、やはり高校野球、特に「甲子園」は国を挙げて注目されているのだと感じました。



開幕戦 岩国高校 vs 神村学園

開会式が終わり、10:35～試合開始となりました。試合中、あいにく私はベンチ裏など選手に密接に関われる場所には入れませんでした。

ベンチ裏にメディカルスタッフとして入るには・・・

- ・日本高校野球連盟が委託している「アスリートケア」という組織に入る。
- ・甲子園出場校の専属トレーナーは不可。

私は岩国高校のトレーナーをしており、他チーム含め個人情報の漏洩を防ぐためメディカルスタッフとして入ることはできませんでした。

そのため、試合中はアルプススタンドで応援させていただきました。

大型バス 24 台、生徒、OB、保護者などおよそ 3000 人もの観客がアルプス席を埋め、ほぼ満席となりました。岩国高校は公立の進学校ということもあり、入学するには推薦入学などはありません。筆記試験の結果次第です。また、甲子園出場校の多くは全国から選手が集まりますが、私たちは地元の学生ばかりです。そのため、市民の方々からも多くの声援をいただき、当日は岩国市長にもかけつけていただけました。



試合の結果は・・・1-6 で負けました。

河口監督は

「選手の力を引き出せなかった指導力不足です。開幕戦の難しさを感じた。」

エースの柳川選手は

「緊張してしまい、自分の投球ができなかった。負けたのは全て自分の責任です・・・」

やはり、甲子園という舞台は「憧れの舞台」であり、自分の力を十分に発揮できる選手もいれば、できない選手もいます。今までで一番緊張した経験かもしれません。開会式後の試合ということで、ものすごい緊張感の中で試合をされたのだと思います。

【感想】

母校のトレーナーとして関わらせていただき大変貴重な経験をさせていただきました。久しぶりに監督、コーチ、選手と過ごし、みなさん目が輝いているように見えましたし、純粹で素直な選手ばかりです。積極的に質問してくる姿に驚きました。ただ「野球がうまくなりたい」、「勝ちたい」

監督、コーチ、選手の目標に向かっていく取り組み、姿勢はとても勉強になりました。自分自身を照らし合わせ、理学療法士としての目標に向かっていきたいです。

幸いにも、選手のコンディションは良好でしたが、試合中、いつもどおりのピッチングができていない姿を見ながら、自分自身の責任を感じました。

コンディショニングとしてもっと心理的な部分にアプローチしていたら・・・エースの柳川選手は涙を浮かべ、「肩と肘の調子はよかった」、「本当にすみません、本当にありがとうございました」と言っていました。

甲子園という高校球児の夢舞台で、しかも開幕戦で普段どおりの力を発揮することは本当に難しいことだと思います。

また、甲子園の土を誰一人として持って帰らず、「また甲子園来ます！次は絶対勝ちます。また夏お願いします！」と力強く言ってくれました。一言一言に重みを感じ、こちらにも刺激をもらいました。野球部 OB として、一人の理学療法士として、このチームをまた甲子園に、そして次こそはこの舞台で強豪校に勝てるよう、できる限りのサポートとしたいと感じました。

個々の潜在能力は他の甲子園出場チームと比べてまだまだですので、これからも厳しい練習を行い、夏の甲子園に向かっていってほしいと思います。



柳川選手 阿部 PT
(主将、エース)



二十八選手 阿部 PT 田島選手 男谷選手



最後はトロント・ブルージェイズ所属川崎宗則選手の「小さなガッツポーズ」！

夏の甲子園出場、そして勝利を目指して

ガンバレ！！ 岩国！！

監督はじめ岩国高校野球部関係者の皆様ありがとうございました。
また、このような機会をこころよく派遣していただいた院長ありがとうございました。